

「学びの革新」を先導的に実践する学校の校名について

平成 29 年 9 月 5 日
学びの革新推進課

1 これまでの経緯

(1) 校名案の公募

- ・公募期間：4月27日（木）～5月24日（水）
- ・公募結果：県内外より計205件の応募

(公募結果概要)

地名	「広島」57件、「Hiroshima/HIROSHIMA」4件、「ひろしま」4件、「ヒロシマ」1件、「大崎上島」9件、「大崎」9件、「瀬戸内」12件、「せとうち」3件など
学校のコンセプト	「創」20件、「学び」（「まなび」を含む）14件、「未来」（「みらい」含む）12件、「国際」23件、「グローバル」（「global」含む）17件など
立地条件	「海」12件、「島」8件（アイランド含む）、「洋」8件 など
その他	「学園」18件、「館」9件、「アカデミー」5件など 英語あるいはアルファベットのみ 16件 日本語と英語・アルファベットが混在したもの14件 カタカナ語を含むもの 41件（アカデミーなどを含む）

注1：一つの校名案に複数の内容が含まれている場合、それぞれにカウントしており、件数が重複する場合がある。

注2：日本語名と英語名が併記されている場合、日本語名のみをカウントしている。

(2) 有識者との意見交換会

7月5日（水）～7月31日（月）にかけて、以下の方々と意見交換。

- ・今井むつみ 慶應義塾大学環境情報学部教授
- ・大竹美喜 アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）創業者
- ・隈元美穂子 国際連合訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所所長
- ・坂越正樹 広島大学大学院教育学研究科教授
- ・坂田淳二 Prime Field Asia Limited CEO, ARIGATO HOCKEY 代表
- ・滝村典之 マツダ株式会社人事部副室長
- ・田熊美保 OECD（経済協力開発機構）教育スキル局シニア政策アナリスト
- ・坪内南 一般財団法人教育支援グローバル基金理事・事務局長
- ・村上雅人 芝浦工業大学学長

(主な意見)

- ・学校の目指す理念が現れていることが大前提。その上で、基本的には、シンプルで、かつ、意味が分かりやすく、イメージしやすいものとすべき。
- ・当て字などではなく、音で聴いて意味や漢字が浮かぶものが良い。
- ・どの時代にも当てはまる普遍的な「学問や人間の本質」が表現できると良い。
- ・重々しいものや難しいものにすぎると、親しみがわきにくい。
- ・「イノベーション」や「グローバル」などが感じられる名前が良いのでは。
- ・海外とのつながりを深めようとする学校であり、また、「広島」は海外では一つのブランド。日本語名、英語名にいずれについても、「広島」は入れるべき。

2 校名案

【日本語名】

広島県立 広島^{えいち}叡智学園 中学校・高等学校

【英語名】

Hiroshima prefectural

Hiroshima Global Academy

Junior / Senior high school

3 理由

- ① 6年間（3年間）の深い学びを通じて、生徒たちに優れた知恵や深い知性を育み、「社会の持続的な平和と発展」に向けて、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダーを生み出す場となることを目指す。
- ② 日本全国・世界中の叡智を結集することにより、生徒が「主体的な学び」を実践できる場となり、また、その成果を広島から世界に発信する拠点となることを目指す。
- ③ 「社会の持続的な平和と発展を実現したい」という高い志を持った生徒たちが世界中から集い、学び、切磋琢磨する場として、「グローバルな社会」を象徴する学び舎となることを目指す。

4 今後の手続き

関係機関との調整後、学校設置に係る広島県立高等学校等設置条例の一部改正条例案を県議会へ提出する。

なお、校名は条例施行日までは(仮称)を付けて使用する。